

リサイクルの推進にあたり、現場間で密に連携することで成果を挙げた事例を紹介します。

－小売チェーン向け受発注部署の事例－

現場間で密に連絡を取り、

- ・終売品の計画的な在庫移動、フードバンク寄贈、社内配布等による排出削減、
- ・リサイクル業者に近い場所に在庫移動させることによりリサイクル率向上。



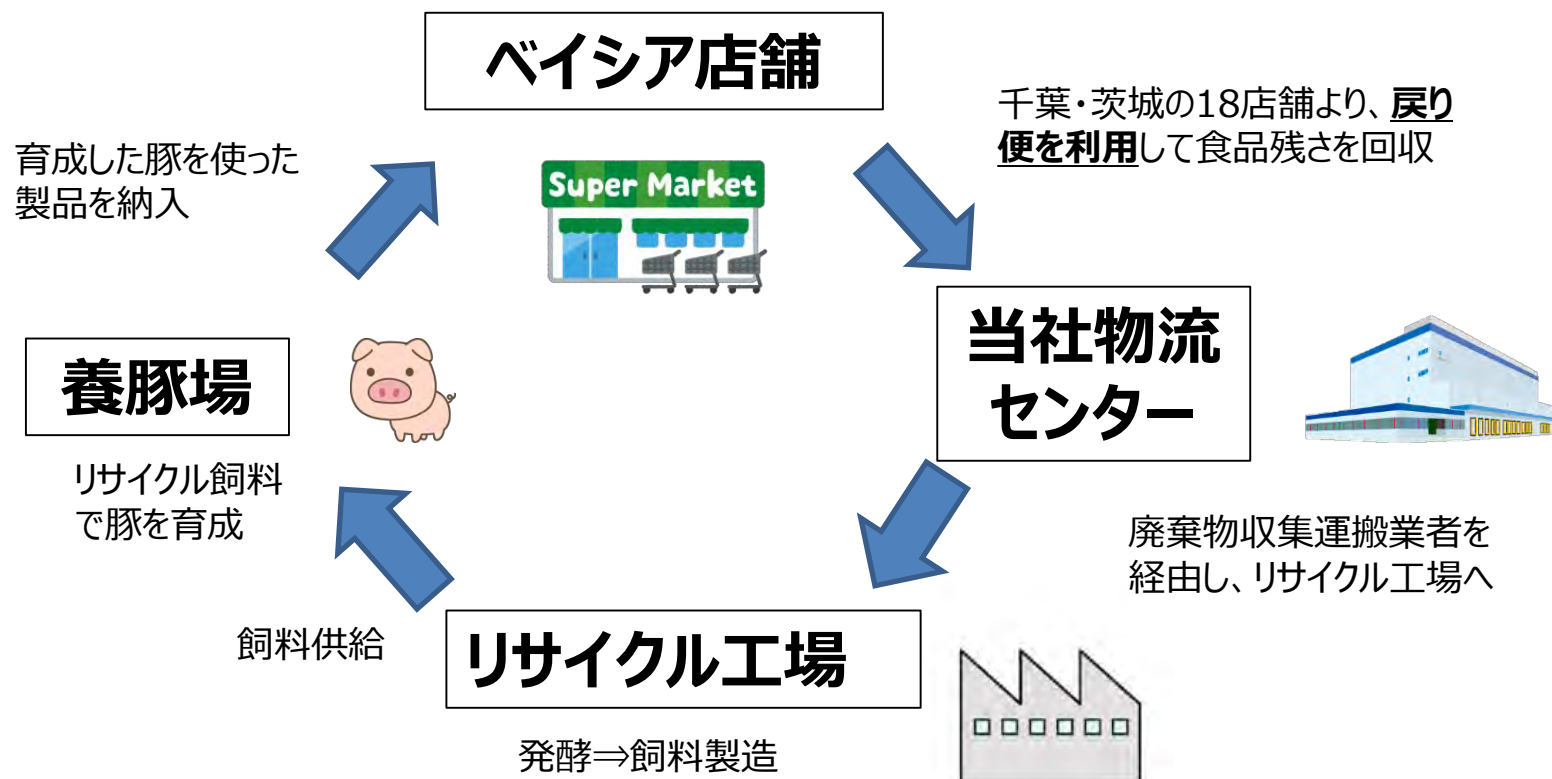
過去3年で
Bチェーン向け食品廃棄
4割超削減、
リサイクル率80%→98%

－Bチェーン向け営業部 W課長－

営業、受発注担当者全員体制で、
「廃棄の回避とリサイクル」に意識高く
取り組んでいます。



ベイシア18店舗の食品残さを戻り便を活用して回収し、家畜の飼料工程へ回し、その畜肉製品を店舗で販売するフローを実践しています(2010～)



上記フローが国の「食品リサイクルループ(※)」に認定

※)食品リサイクルループ：食品事業者とリサイクル業者、農業者が連携して構築する食品リサイクルの循環モデル。食品リサイクル法に基づき、主務大臣に計画を認定されることで廃棄物処理業の許可不要等の特例措置が適用される。令和2年7月現在49件が認定されている。

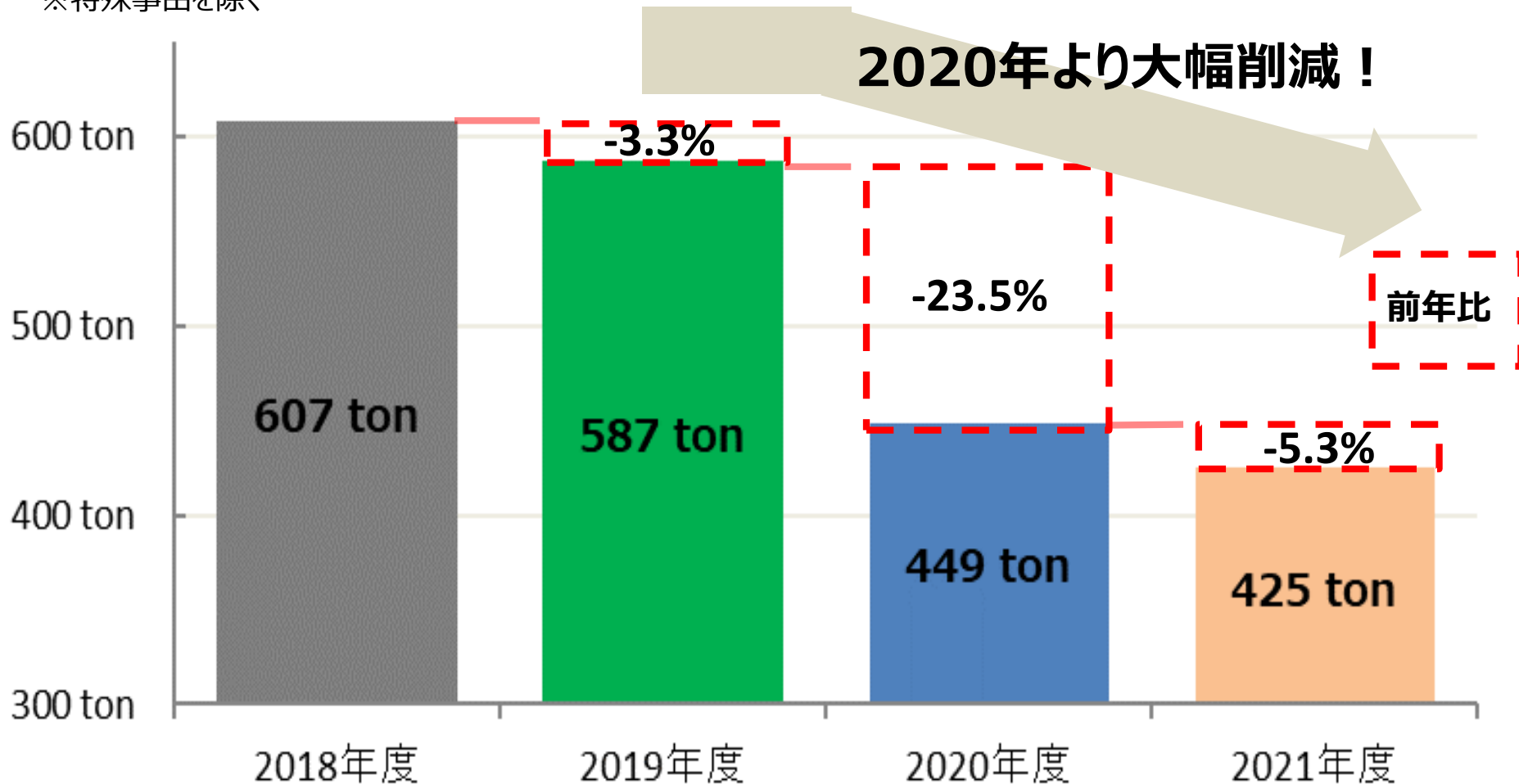
定量効果



全社 食品廃棄物排出量(ton)

※特殊事由を除く

※特殊事由:災害要因、
他社要因(大口求償案件)によるもの



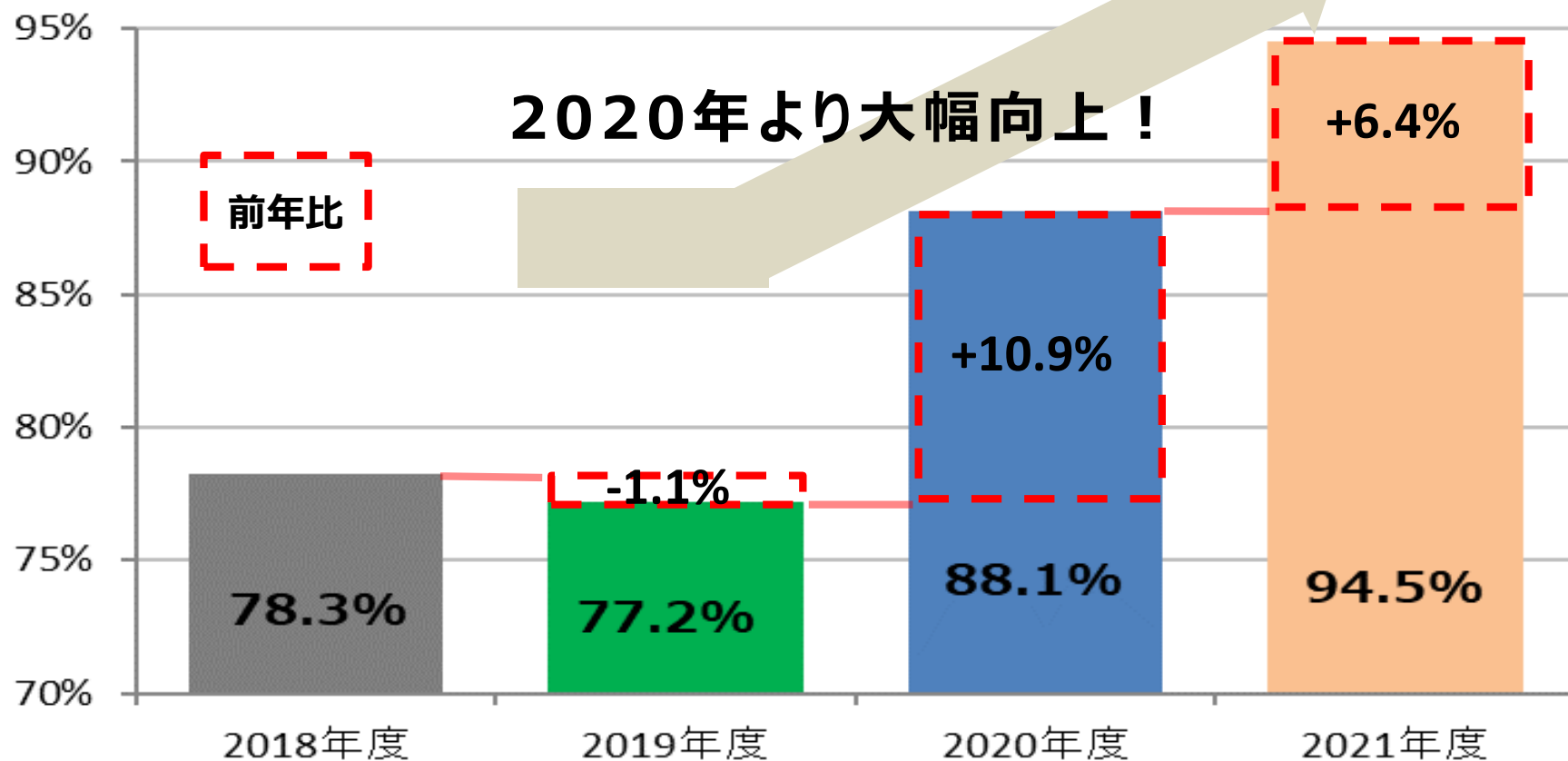
目標達成目安 (-4%) を大幅に上回るペース！

食品リサイクル率の推移

全社 食品リサイクル率(%)

※1：特殊事由を除く

※1特殊事由：災害要因、
他社要因(大口求償案件)によるもの

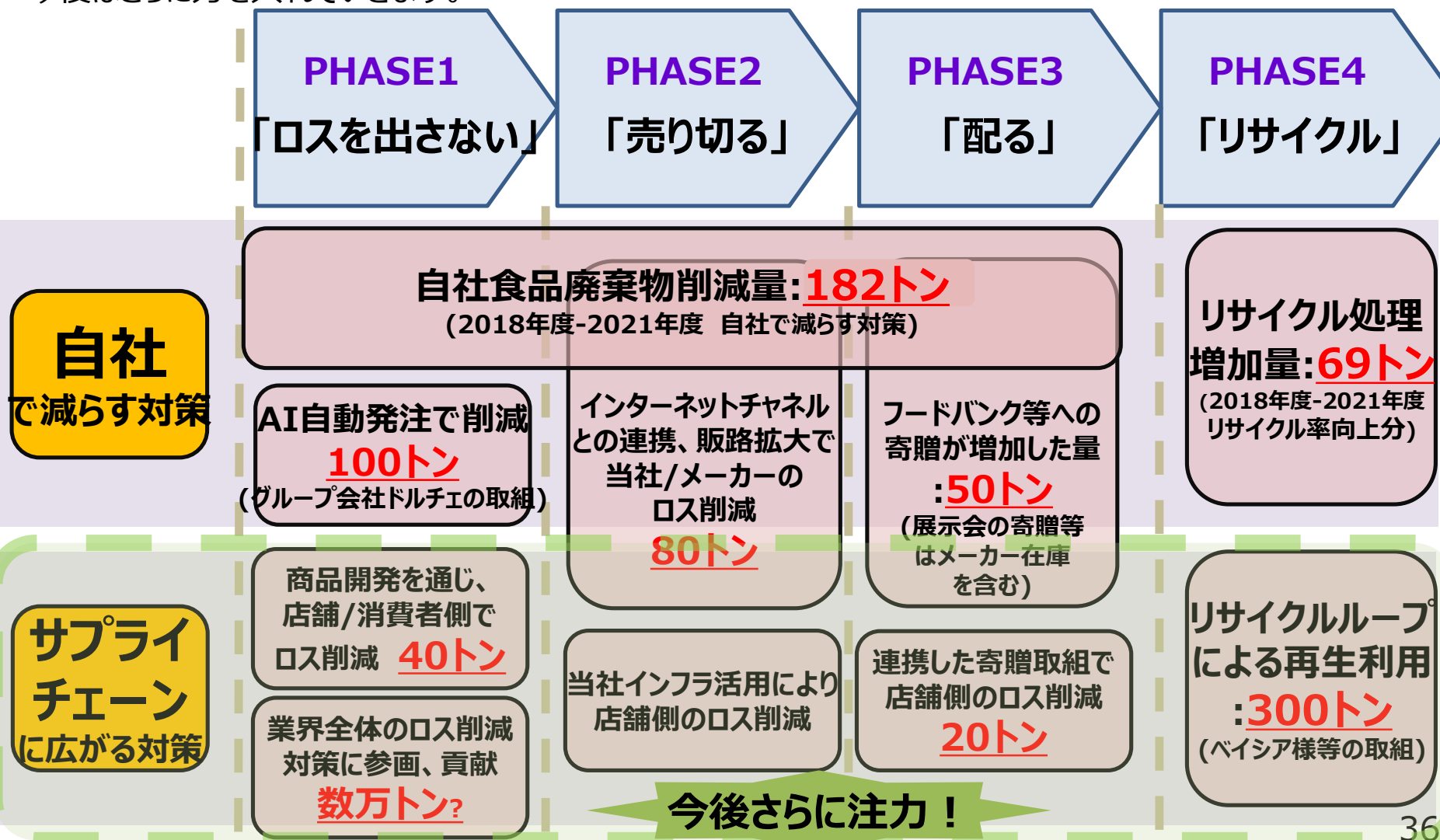


2020年度以降、新しい業種目標（※2：75%）を大幅にクリア！

※2：75%・・・食品リサイクル法における、2020年度以降の卸売業の目標値

各活動による食品ロス削減効果(トン/年)

各活動による、食品ロス削減への貢献度を、できる限り定量(トン/年)で表してみました。サプライチェーンに
拡がる対策の定量化は難しいですが、**自社で減らす対策**よりも規模も社会的な貢献度も大きいと思われ、
今後はさらに力を入れていきます。



**日本アクセスは今後も、
持続可能な社会実現に向け、
サプライチェーン全体での最適化を考えた
食品ロス削減に取り組んでいきます。**

